

圏外のアンテナ

[2の効用]の巻

ラッキーナンバーってわけでもない。でも、困ったときに頼れる数字がある。それが「2」だ。そもそも「2」という数字は、かなりスペシャル。素数にして偶数という数字は、世界に一つ。おまけに、現代のコンピューター社会は「2進法」によって成り立っている。だから、「2」＝魔法の数字と言っても過言ではない。

そのくせ、「2」は、通知表の「2」に象徴されるように、ひっそり目立たず存在する。

実際、わたしはコピーライターとしての仕事の中で、この控えめな「2」によく助けられている。

ケース1。会議後、クライアントのキーマンにどうしても確認したいことがある。そんな時は、顔の横でチョコキを作りながら、「すみません！ 2分だけいいですか？」と言いながら、駆け寄るのだ。すると、経験から言うと100パーセント、その人は嫌な顔をせず耳を傾けてくれる。

1分でないところがミソ。以前は「5分だけいいですか？」などと口走って難色を示されたこともあったのだ。だが「2分」と口にすることで時間泥棒ではないことが一瞬で伝わる。この作戦、結構使えます。

ケース2。飛行機で、トイレには行きたくないが、唇は湿らせたい、そんな時は、飲み物を勧めるCAさんに「2センチだけ」とお願いする。「半分」や「少しだけ」だと、紙コップの7分目あたりまで入れられちゃうことがある。だが「2」という数字を出すと、途端に彼女の手つきが慎重になる実感がある。

ケース3。プレゼンのつかみで「それでは、2晩寝ないで考えたコピーをお見せします！」などと切り出してみる。あえて「2晩」と言うことで、一夜漬けの適當さは消える。また、「3日3晩寝ていません！」が醸し出す危うさとは違う、ちょうどいい本気度が伝わるようである。

みなさんも、頼れる「2」を使い倒してみてください。

=2025年2月28日掲載=

